

## 横浜労連大会について

2001/9/8 に開催された横浜労連第 12 回定期大会について、日立問題にかかわるところだけを以下にメモする。

2001/9/11 JMIU 千代田化工支部 山田記

### 1. 溝口事務局長の経過報告内容について

神奈川労連が同代表を共闘代表委員にすることと共闘会議の総会を開くことを求めているのに対し、共闘側と争議団はちゃんと応えないばかりか、4月の全国オルグで神奈川労連が支援してくれないと言って全労連・神奈川労連批判を行った。我々は争議の解決を願うが気持ちよく応援できるようにして欲しい。今後の支援再会に向けては一定の条件を付けざるを得ない。ただ争議支援は良いから応援でなく、一緒に応援できるようにして欲しい。

### 2. 代議員の討論について

#### ①足立（戸塚）

原告は家を省みずという語弊があるがそれぐらい一生懸命にやっているのだから支援をしてやって欲しい。

#### ②田村（戸塚）

戸塚地区労連としては争議未解決で困っている以上支援をしていくことを確認している。横浜労連が謝罪を求めるといのは神奈川労連も求めているもので突出している。自分たちが絶対だというもので感情的だ。争議団を切って捨てては横浜労連の存在意義を失う。大人としての対応をすべきだ。

#### ③秋山（年金）

一連の神奈川労連の文書を読むと、団体署名の件では実際は黙認という弁護団の対応を反対と書いたり、感情的だ。トラブルの原因は池田氏をめぐる感情論があるのではないか。大人気ない。闘争終了後に徹底的に議論すればよいのではないか。現状は会社に筒抜けになっている。争議解決のために努力すべきだ。

#### ④馬場（土建）

感情論でなく事実に基づいて言っている。神奈川労連や横浜労連をひぼう中傷しているものが含まれているのだ。総会も開かず民主的でなく閉鎖的だ。謝罪が必要だ。戸塚労連が支援を続けるとは決めていない。

#### ⑤山田（鶴見・JMIU 千代田化工支部）

支援共闘で交渉にたずさわっているものとして発言する。議案には事実に基づかないものがあるので先ず指摘したい。

・「4月には神奈川労連・全労連批判の文書をもって地方労連にオルグ」したというのが事実に反している。経過は

2/13 神奈川労連に男女差別の団体署名に対する推薦要請を行った。

2/28 神奈川労連が幹事会で、弁護団も反対しているなどと事実に基づかない理由

で賛同を拒否した。

3/9 原告が 7 府県に日立支社前行動などで事前オルグのためのアポイントをもとめて電話を入れはじめた。

3/12 神奈川労連が 2/28 の幹事会決定文書などを 7 府県にファックスした。

このファックスを受けた 7 府県労連が「神奈川労連が支援しないという状況では困難だ」という対応に変わったことがその後のアポを求める電話のなかでわかった。

3/23-4/2 そこで 4 府県に直接会ってことの経過を説明し、団体署名の協力依頼を行った。

従って、決して神奈川労連批判のオルグを行ったわけではありません。

- ・議案では「今後の支援にあたっては、全労連・神奈川労連批判を行ったことの謝罪と今後同様のことを行わないことを明確にしたと判断できた段階で再開する」としている。5/9 に神奈川労連が離脱の方針を決めたが、関係修復に向けて謝罪を要求してはいない。また各単産や地域労連をしぼるものでもないというものだった。従って「謝罪と誓約」を求めた文書決定は横浜労連がはじめてだ。このように踏み込んだ判断をするには、争議団や共闘側と事前に話し合うべきだが一切なかった。ここまでいうからには相手の話をよく聞くべきではなかったのか。

- ・日立争議の現状について

3/21 に自主交渉が始まり既に 11 回の交渉が行われている。会社は差別是正の賃金額や資格について三次にわたって回答を示して早期解決への姿勢を示している。

しかし、他方で日立は差別そのものを反省し全面的に是正するという立場に立っていない。千代田化工の場合は同期平均に一律に 100% 是正する解決をしたが、昨年解決した 1 都 2 県の内容は、資格是正が全員一律ではない。賃金は若干上がるが、資格は据え置かれた人もいた。

つまり日立は争議解決の内容でも差別を持ち込もうとしているのですから、争議団 10 人全員が一致団結して闘うことが求められている。争議団の団結が壊れれば解決ができなくなる恐れもある。

従って、争議団が団体署名をやりたいと言っているものを外から反対してつぶそうとしたり、事実を曲げて中傷して支援しないと労働組合が決めてしまえば争議解決を困難にするものだ。

以上の立場から、日立にかかわる経過報告は了承できません。

日立争議の解決交渉は最終、最重要局面を迎えている。支援共闘は事実に基づくご批判には謙虚に耳を傾け、誤解であればといてもらいたいと願っている。いずれにしても、日立は争議団の団結の状況、支援する労働運動の側の団結状況を見て対応している。私たちは団結強化のために努力しますので、みなさん方の最後までのご支援をお願いして発言とする。

⑥佐々木（年金）

日立の原告は労働者のため一生懸命に闘っている。早く解決させるために全体の力でやって欲しい。

⑦前田（市従）

早期解決は同感だが、支援共闘として最低限のものとして総会と代表委員は当然だ。そうすれば関係修復すると言っている。なぜだめなのか理由を示せ。

⑧中野（NTT）

神奈川労連の議論は感情的ではない。早期解決のためには総会を早めに開き代表委員を受け入れて欲しいと言っている。代表委員が入ってないと支援する気になれない。

⑨佐藤（横浜地区労）

昨年の神奈川労連大会から討議してきた。総会と代表委員を強く迫ったが改善されなかった。そういうなかで全労連・神奈川労連を批判中傷したので代表委員を送るのをやめた。支援を受けてやっているのだから節度が必要だ。共闘側は昨年と今年2回文書を出した。このようなものは本来出すべきではない。別の意図があるのではないかと思った。

3. まとめの溝口発言について

我々は組織だから感情論でなく民主的運営が必要だ。その点で総会を重視している。

どこに依拠して勝つのか。神奈川労連に依拠してやる以上、代表委員は当然だ。他府県に批判のオルグをやるようでは誰と一緒にたたかうのかわからない。関係者はこの方針で奮闘してもらいたい。

4. 採決について

採決は各議案について挙手で行ったが、賛成者が多数と判ると賛成多数と処理した。経過報告には、山田の他、田村さん、国病の女性、秋山さんなどが保留の意思表示をした。